

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191000062		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「おおぞら」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥429-6		
自己評価作成日	令和3年10月28日	評価結果市町村受理日	令和4年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191000062-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町の中心部に近い住宅街にある環境で、地域の人々と交流を深めながら、地域の一員としての意識をもち、日々の生活の中で生きがいを持ち、心穏やかに過ごしていただける空間を提供する取り組みを行っている。同法人のグループホーム、小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者生活介護、短期入所生活介護、居宅支援事業所と連携を取りながら、利用者様やご家族様の希望に沿った総合的な支援に取り組んでいる。また、母体が病院であることから、24時間医療と連携した支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度も昨年同様、新型コロナウイルス感染予防対策として、敷地内のカフェにて外部評価訪問調査となった。母体は医院と複数の介護事業サービスを運営する医療法人であり、ほとんどの利用者の元々のかかりつけ医でもある。医療・保健・福祉の資源を最大限に活かす地域密着型サービスとして、利用者と家族、職員が、地域住民と共に安心して暮らせるよう、24時間の医療連携体制で支援に取り組んでいる。勤続年数の長い地元職員も多く、コスモス苑の庭を散歩する住民と挨拶を交わしたり、行事や地域の防災訓練等で利用者も共に交流するなど、コロナ禍にあっても、利用者を孤独にさせない支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・皆が見やすい場所に掲示しており、実践している。 ・ケア会議でも理念に沿える様、重点的に話し合っている。	理念を目に付きやすい場所に掲示し、毎日、確認しながらケアを実践している。申し送りやミーティング時に支援を振り返り、理念に沿ったケアが行えているかを職員間で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・新型コロナ感染拡大の為地域との交流は減っているが、保育園の子供たちの鼓笛隊等の来苑があり、利用者様も見学している。又、地域の方々も見学に来ておられる。	母体が医療法人であり、複数の介護支援サービス事業所を運営しながら、利用者と共に地域住民も将来を不安なく暮らせる支援を目指している。食材の購入等も地産地消に努め、防災訓練など、地域全体で交流しながら取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の方より相談があれば説明が出来るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・コロナの影響で現在は出来ていないが、以前は行っていた。施設の状況、行事等を説明し、そこで出た意見は現場でも生かすことが出来るよう、努力している。	昨年同様、新型コロナ感染拡大防止のため、書面開催としている。運営や活動、利用者状況について話し合い、感染症対策を継続しながら、利用者が不穏にならないよう支援に努めている。地域からの意見や要望を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市からは、介護相談員が定期的に来苑。(今年度はコロナの関係で、中止。)区分変更、認定調査、コロナの対応で、連携しながらスムーズに行えていると思う。	行政から、新型コロナ最新情報や感染症予防対策などの情報を受けている。困難事例の相談や事業所の状況を報告しながら、介護保険の動向について現場の意見を具申するなど、日々、情報交換を行いながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・玄関の施錠は、安全面から行っているが、中庭や別フロアへは自由に行き来できるようにしている。 ・身体拘束は、家族様に相談・説明し許可を取っている。毎月のケア会議で検討を行っている。	身体拘束廃止委員会を定期的に開催している。身体拘束についての学習会を開き、弊害についても学びを重ねている。止むを得ず拘束が必要な場合は、家族の同意を含めて、具体的な対応方法や対応期間等を検討し、短期間での解除を目指して支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・ケア会議で、定期的に勉強会を行っている。外部の研修会への参加もある。気になることがあれば、相談しやすい環境を整えている。		

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・今のところ使ってみえる方はいないが、今後の為に学ぶ機会をつくると良いと思う。		
9	※	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・サービス利用開始に当たり、ご家族様・ご本人様と面談し、苑側の情報を提供し、又、ご家族様の情報も収集し、十分な説明をして理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者様の声に耳を傾け、日常会話の中から汲み取るようにしている。苑の行事・面会・電話対応時にご家族様の要望をお聞きしている。これらは、運営に関する会議に反映されている。	利用者の日常生活や行事の写真などを掲載した「おおぞら便り」と共に、担当者の手書きメッセージを添えて、家族に送付している。コロナ禍で、現在は面会を自粛しているが、電話の際に要望を聞いたり、ホームページやブログで利用者の暮らしぶりを発信している。	定期的に発行する「おおぞら便り」と共に、個別に担当職員が手書きメッセージを送付している。また、できる範囲で、利用者本人の文字や絵などを記載するなど、家族の楽しみが増える工夫にも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月に一度のケア会議や、苑全体の責任者会議で話し合う機会が設けてある。代表である医師や、施設長が、定期的に訪れ、職員の意見を伝えやすい環境である。	ケア会議には、医師である代表や管理者も定期的に参加し、職員が気軽に意見を言える機会となっている。職員は、訪問看護師と共に、利用者の日々の健康管理に努めている。資格取得の機会も多く、勤続年数が長い職員が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	世代の差や、能力の差はあるが、勤務時間の調整や、協力体制が整っており、働きやすい環境となっている。		
13	※	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修や、資格取得の情報を常に提供し、スキルアップ出来るようサポートされている。		
14	※	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・外部の研修や講演会等に参加している。現在はコロナの為に少なくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・サービス開始前にご本人と面談を行い、ご希望や生活歴を知り、安心して生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・サービス利用開始前に、ご家族様と面談。入所時にも訪問して頂き、要望等をお聞きし、安心して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・利用者様・ご家族様の意見を尊重し、その時の体調や様子などにも気を配り、必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご本人の自主性を尊重しながら、人生の先輩として、尊敬の心で接している。水分補給なども一緒に行い、一人一人と関われるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族様との協力でケア出来ることもあり、関係が途切れないよう、季節の衣替え等で来苑して頂いている。その時には、様子を伝えたりして、会話が弾むよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・コロナの為、現在は制限付きだが、面会して頂いたり、なじみの場所へは、ご家族様にも協力して頂き、連れて行っていただける様にしている。	外出が難しい為、利用者は苑の庭を散歩している。地藏参りの地域の高齢者とも馴染みであり、交流の場にもなっている。法人内にある複数施設の利用者も地元の人が多く、もともとの昔馴染みでもあり、利用者同士が挨拶を交わしている。ガラス越しの面会や、個々の希望等では、家族の協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者様同士が良好な関係を築けるように、椅子の位置等配慮している。職員が間に入り、楽しく過ごして頂けるように、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・ご家族様や入院先などから相談があれば、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・施設利用に至るまでの情報や、ご本人との会話・生活ぶりの中で理解し、職員同士常に話し合いを行っている。月一度の定期のケア会議でも検討している。	契約時のアセスメントを参考に、入居後は日々の生活支援の中で、趣味や得意なことなどを聞きながら、思いの把握に努めている。利用者が安心して自分の気持ちを言葉にできるよう、さりげなく寄り添い、本人本位の支援に努め、情報は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご家族様・ご本人様から情報収集を行い、把握している。入所後はその人に合ったサービスが提供できるように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個人記録に、体調の変化・一日の様子を記入し、共有している。特に気になる事などは、申し送りノートを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケア会議の中で、課題のある利用者様を提案し、意見交換を行っている。ご家族様の意見も取り入れながら、介護計画に反映させている。	今もコロナ禍にあるが、サービス担当者会議を開催することができている。短時間ではあったが、家族を含めた関係者の参加を得て、介護計画作成について、話し合っている。今後も、家族の参加を得ながら、利用者の現状に即した介護計画作りに取り組むとしている。	
27	※	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日頃の様子は、個人記録に記入し、共有している。連絡ノートも活用し、ケアの均一が図れるようにしている。		
28	※	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者一人一人に合ったサービスを行えるよう支援している。		

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・現在はコロナウィルスの影響で出来ていないが、以前はボランティアの受け入れをし、利用者様に楽しんでいただいていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご本人・ご家族様の意向に沿って、受診・治療を行っている。主治医が定期的に往診も行っており、状況の判断もしやすい。	かかりつけ医について、事業所の方針を説明し、本人・家族が選択している。母体法人の医師は入居以前から、利用者のかかりつけ医でもあり、ほとんどの人が継続している。日常的に医師が訪問しており、利用者は常に適切な医療を受けることができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で、利用者の体調の変化は、看護職、または医師に報告・相談し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には基本情報と医療に関する情報提供をしている。退院後のフォロー約束し、利用者様とご家族様の安心感を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明を行っている。重症化した場合は、ご家族様・医師と話し合い方針を決定している。	入居時に、重度化や終末期の対応について、事業所の指針を説明し本人・家族の同意を得ている。状態に変化があった場合は、早い段階で関係者が話し合い、医師の助言を得ながら方針を決めている。家族の希望に応じて、看取り介護計画を作成し、医師を含めた関係者で情報を共有しながら、支援に取り組んでいる。	
34	※	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルで対応できるように心掛けているが、状況によっては医師・看護職の指示を貰い対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災・水害等の避難訓練を、地域の自治体と共に、定期的に行っている。又、利用者様にも参加をして頂いている。食品の備蓄や水タンクの準備も行っている。	年2回、夜間想定を含めた避難訓練を自治会と共に実施している。法人全体でハザードマップを確認し、水害・地震を想定した訓練も実施している。毎年実施することで、職員の防災意識の強化と地域との連携体制作りにも繋げている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・尊厳・プライバシーに配慮した対応を意識している。	職員は、常に利用者の笑顔が見える支援に努め、会話時には、傾聴を心がけている。利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。特に、排泄や入浴介助では羞恥心に配慮した支援に努めている。	
37	※	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言葉の耳を傾け、話を聞き、自己決定できるように支援している。		
38	※	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人を尊重し、希望を聞きながら、日々の生活を過ごして頂けるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・身だしなみに気を付け、定期的に散髪や、髭剃りの介助・お化粧される方は希望の物を購入してお渡ししていて、大変、喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事は個人に合った物を提供している。テーブル拭きや、片付けなど、積極的に手伝ってくださる。梅ジュースや干し柿、お団子づくり等、利用者様が主体となって作っていただける。 ・おやつ作りも行っている。	管理栄養士の指導の下、専門職員が旬の食材で手作りしている。地域住民からの差し入れもあり、おやつ作りや保存食作りなどは、経験豊かな利用者が中心となり、楽しみながら行っている。利用者の希望も聞きながら好みの食事を提供し、完食に繋げている。送付した献立表を見た家族からは喜びの声を聞くことも多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事、水分量は、記録ノートに記入されており、バランスが取れた食事を提供できているか、チェックしている。チェックをもとに、栄養士から指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・起床後、毎食後に、口腔ケアを行っている。異常があれば歯科受診や往診をしてもらっている。		

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に合った排泄介助や、声掛けを行っている。 チェック表をつけて、記録を共有し、自主に向けた支援を行っている。 	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けと誘導で、トイレでの排泄が継続できるよう支援している。また、利用者の状態に適切な排泄用品を使用しているかを検討しながら、日中は布パンツや紙パンツで過ごせるよう支援し、本人負担の費用軽減に繋がるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 排泄パターンを記録によって把握しており、便秘気味の方には水分を多くとっていただいている。また、日中のレクリエーションで身体を動かして頂いている。又、医師に上申し、緩下剤も使用している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 全体の入浴日は決めてあるが、その日の状態や希望に合わせて、変更の対応をしている。入浴剤や季節のお風呂の日を作り、変化を楽しんでいただいている。 	週2回の入浴支援としているが、利用者の希望で柔軟に対応している。個浴でゆっくり入浴を楽しみたい人、立位姿勢が難しい人もあり、機械浴、リフト浴など、利用者の状態と希望に応じた安心・安全な入浴、また、入浴を楽しめるよう工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちよく眠られる様、温度調節や寝具に気を付けている。1人1人の生活習慣を尊重し、休みたい時には休んで頂いている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 個々に出されている内服薬を理解して、症状の緩和が出来るように、看護職と連携し、状況の変化に対応している。 		
48	※	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の得意な事や、好きな事、出来ることをやっていただけよう、支援している。 楽しみを増やして頂けるよう、季節の行事や、レクリエーションを行っている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響で、苑外への外出は病院受診のみとなっている。苑庭や、苑外への散歩、近場の美容院へは出かけていただいている。 	苑の広い庭には地蔵様が祀られており、毎日のお参りが利用者の日課である。地域の高齢者も参拝に訪れ、交流の場にもなっている。例年は季節の花見や様々な地域の行事に参加していたが、現在は、苑外への外出を自粛している。家族の協力で外出する利用者もある。	

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・トラブル防止の為、事務所で管理している。 ・日用品や、利用者様の要望の品を購入している。 ・コロナの為、買い物の外出は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・御家族様や友人の方からの電話は、自由に掛けていただいている。利用者様からも要望があればかけていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・日々の清掃や、季節の飾りつけや行事の写真の展示を行い、気持ちよく過ごせるように努めている。 ・苑庭に、花や野菜を植えている。	リビングは広く、福祉用具が必要な利用者も安全に移動ができる。窓からは、顔見知りの人が散歩する姿や子どもの声が聴こえ、手を振ったり、挨拶を交わせる環境である。山の景色や庭の花、畑の野菜などで季節の移り変わりを感じることができる。コロナ禍にあっても、様々な行事を工夫しながら実施し、利用者が穏やかに過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・中庭に椅子があり、自由に入出し使用できる。 ・フロア内では職員が声掛けし、気の合う方と話せるよう、席を移動して頂いたりして、気配りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で使用していたテレビや写真、思い出の品などを、持ち込んで頂いている。 ・季節の写真も飾っている。	電動ベッドや空気清浄機付きのエアコン、整理筆筒が設置してある。表札は、利用者が自室とすぐに分かるよう、個々に工夫している。テレビや使い慣れた日用品など持ち込み、使いやすいように配置している。居室の掃除を自分で行う利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・安全に、自立した生活を送っていただけるよう、手すりの設置や、状態に合わせて家具の配置等をしている。 ・居室の位置なども配慮し、事故のない様にしている。		